

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：35404
研究種目：基盤研究(B) (一般)
研究期間：2013～2016
課題番号：25283018
研究課題名(和文) 日本におけるクィア・スタディーズの構築

研究課題名(英文) The Construction of Queer Studies in Japan

研究代表者
河川 和也 (Kawaguchi, Kazuya)

広島修道大学・人文学部・教授

研究者番号：10351983

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究グループでは、調査クラスタが、性的マイノリティに関する意識について学術的方法を用いた全国規模調査を2015年3月に行った。政策クラスタは、男女共同参画及び人権施策やそのなかで性的マイノリティに対する具体的施策の遂行状況に関する自治体悉皆調査を2016年5月に行った。これらのプロジェクト遂行には、理論クラスタからも質問票作成と調査結果公表時には、ワーディングや伝達方式において示唆を得た。全国規模の意識調査については、東京と京都において一般およびメディア向けに調査報告会を開催し、2016年6月に報告書『性的マイノリティについての意識 2015年全国調査』として代表者のウェブサイトで公表した。

研究成果の概要(英文)：In our research group, in March 2015 the survey cluster implemented the quantitative survey all over Japan using formal methodology. The policy cluster conducted exhausted survey to the local governments on how they implement policies for sexual minorities within the gender equal society and human rights fields in May 2016. To accomplish the projects, we got the suggestion on making questionnaire, wording and communication methods when the results are disclosed. And we organized conference for showing the results of this survey at Tokyo and Kyoto. Moreover we published "Attitudes toward Sexual Minorities in Japan: Report of 2015 National Survey" on the Website of the representative researcher.

研究分野：社会学・セクシュアリティ研究

キーワード：性 セクシュアリティ ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

英語圏で展開されているクィア・スタディーズの最新の議論は日本語圏のアカデミア内で十分に共有されていない。加えて、英語圏での日本あるいは東アジアのクィアについての知見と日本語圏におけるクィア研究の蓄積とが十分な相互共有がなされてこなかった。

この問題意識のもと、研究者らは2007年から2009年にかけて「日本におけるクィア・スタディーズの可能性」(以下、第1期)と題する共同研究を開始した。この3年間の研究は、理論班と実証班にわけ、理論班は基礎理論の研究、実証班は個別の実証研究をもちより共通する課題を抽出した。その結果、日本でクィア・スタディーズを確立することの可能性と意義の検証に成功し、次なる課題として、階級・階層、国籍などの交差軸を意識した研究遂行の必要性を導き出した。そこで2010年から12年にかけて「日本におけるクィア・スタディーズの展開」(以下、第2期)をテーマに共同研究を継続した。第2期では、第1期の理論班を継続、実証班を生活、健康、教育、法制度の4つに分類し、交差軸を意識しつつ、それぞれの研究を遂行した。

第2期では研究班ごとに研究を遂行し、一定の成果を得ることができた。その結果、法制度(同性婚)や社会調査、社会制度設計において、理論研究と実証研究の問題意識とが交流のないまま研究が進められている現状が明らかとなり、研究成果を他の学問分野および(市民)社会領域(政策提言を含む)と交流させていくことの意義と緊要性が確認できた。第1期と第2期で導き出された課題を踏まえて、現状の到達点として、日本におけるクィア・スタディーズの体系化と社会還元を目指した。

2. 研究の目的

研究者らは過去6年間にわたり、日本におけるクィア・スタディーズの確立に向けた共同研究を続けてきた。本研究は6年間の研究成果にもとづき、現段階の集大成として、日本におけるクィア・スタディーズの体系化(institutionalization)と研究成果の社会還元(outreach)を行うものである。これらの作業を通して、性/ジェンダー/セクシュアリティに関連する日本の学術研究の発展に貢献するとともに、性/ジェンダー/セクシュアリティに関連する具体的な社会問題や人権侵害の解決に資するツールを提供することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、クィア・スタディーズの体系化と社会還元を目的としている。この目的を実現すべく、研究組織を「調査クラスタ」「理

論クラスタ」「政策クラスタ」の3つに分割した上で、各クラスタの接合部分に担当者をおいた。また各クラスタの中心に全体を統括する担当者を置くことで、研究全体の有機的つながりを常に意識しながら研究を遂行した。4年間の研究期間のうち、最初の3年間はクラスタごとに研究を進め、最終年度において、全体の接合を図ることとした。

4. 研究成果

科研グループでは、毎年全体とクラスタ毎で数回の研究会議を開催し、そのつど進捗状況を確認しつつ、研究報告を行ってきた。

調査クラスタでは、性的マイノリティにかんする意識について全国規模の質問票調査実施に向け、調査票や調査方法の検討を重ね、2015年3月に層化二段無作為抽出法(全国130地点)により20歳から79歳の男女2600人に対して調査員による戸別訪問留め置き法を用いて、調査を実施した。回収票数は1259通で回収率は48.4%であった。

この調査結果の詳細な報告については、研究代表者主宰のウェブサイトにおいて公表している。

(<http://alpha.shudo-u.ac.jp/~kawaguch/>)

さらに、2015年11月には、本調査結果に関する報告会をメディアおよび一般向けに、国立社会保障・人口問題研究所において開催した。さらに2016年から17年にかけては、京都、松山、福岡等で他団体との共催あるいは招聘という形で調査結果を報告した。

また、2016年日本社会学会において本調査関連の学会報告を行ない、2017年日本女性学会では学会報告を行なう予定である。

理論クラスタでは、科研研究期間内に合計6回のクィア理論入門連続講座を開催し、若手育成およびクィア研究の成果伝達のための実践的教育法を模索し、平均して毎回80名を超える参加者を集めた。また、院生を中心とした研究会を開催し、クィア研究関連領域の若手研究者への議論の浸透と共有を図った。さらに、過去のクィア研究の成果蓄積の見直し・整理として、(1)理論翻訳を通じた国内におけるクィア関連の学術的論点の確立について国際学会報告、(2)クィア理論の成立に至るフェミニズム理論のセクシュアリティに関する論点整理、(3)クィア理論と自死/弔いに関する公開研究会、(4)視覚文化におけるクィア理論の発展と批評的意義に関する国際学会報告、(5)エイズアクティビズムを通じた社会学とクィア研究との理論的接続に関する学会報告を行なった。

政策クラスタでは、2013年度に実施した地方自治体へのアンケート調査結果を集計・分析した。男女共同参画担当部局と人権担当部局の2部局のうち、後者が長らく性的指向と性同一性障害に関する政策を担当してきた

が、第3次男女共同参画基本計画以後は徐々に男女共同参画担当部局も取り組みを始めていたことがわかった。具体的な施策としては啓発活動（講演会・研修）が多く、内容は性同一性障害が中心となる傾向を確認することができた。さらに、人権および男女共同参画の条例や基本計画において、各文書に性的マイノリティに該当する語句が散見されることがわかった。とくに人権関連では法務省の人権週間で使用されている表現と同様のものが目立ち、男女共同参画関係では国の第3次基本計画以降に言及が増えてきている。ただし、多くが性同一性障害に限定されており、性的指向に関しては数少ない。また、2016年5月に性的マイノリティ施策の自治体悉皆調査を行い、計画・条例・事案等の情報を収集したところ、自治体の大小にかかわらず人権計画策定や当事者の事案対応を行う自治体の存在を把握した。詳細な調査結果報告書については、近々に研究代表者主宰のウェブサイトで公表予定である。
(<http://alpha.shudo-u.ac.jp/~kawaguch/>)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6件)

Kohr, Diana and Saori Kamano, Negotiating Heteronormativity in the Heterosexual Mother-Lesbian Daughter Relationship, 家族社会学研究、査読有、25巻2号、2013、124-134

堀江有里、<結婚>をめぐる抗争 同性間パートナーシップの法的保護と可視化戦略の陥穽、公益財団法人世界人権問題研究センター・研究紀要、査読有、20巻、2015、277-301

河口和也、わたしたちはここにいる 地方中核都市に生活する性的マイノリティの「語り」から、理論と動態、査読有、9巻、2016、73-91

風間孝、性的マイノリティのスポーツサークルにおける戦略的競技志向、女性学研究、査読有、23巻、2016、22-35

飯田貴子・風間孝ほか 性的マイノリティに関する調査結果 第2報：性別、LGBTの知人の有無、競技レベルに着目して、スポーツとジェンダー研究、査読有、14巻、2016、21-32

堀江有里、初期エイズにおける女性の身体と人権：複合的リスクと不可視性をめぐる一考察、公益財団法人世界人権問題研究センター・研究紀要、査読有、21巻、2016、61-81

〔学会発表〕(計 6件)

KAZAMA, Takashi, KAMANO, Saori, KAWAGUCHI, Kazuya, ISHIDA, Hitoshi, YOSHINAKA, Takashi, Attitudes Toward Non-Normative Sexualities Among University Students in Japan: Quantitative Analysis (Part.1) International Sociological Association Conference, 2104.7.14, パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

KAMANO, Saori, KAZAMA, Takashi, KAWAGUCHI, Kazuya, ISHIDA, Hitoshi, YOSHINAKA, Takashi, Attitudes Toward Non-Normative Sexualities Among University Students in Japan: Quantitative Analysis (Part.2) International Sociological Association Conference, 2104.7.14, パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

KANNO, Yuka, Queer Connectivity: Film Culture and Festivals in Japan, Representations and Self-representations in Queer(s) in East Asia, 2015.3.20, University of Vienna, Austria.

風間孝・石田仁・河口和也・釜野さおり・吉仲崇、日本におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識(1) セクシュアル・マイノリティ間の比較、日本社会学会大会、2015年9月19日、早稲田大学(東京)

石田仁・河口和也・釜野さおり・吉仲崇・風間孝、日本におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識(2) 同性婚の賛否を規定する要因の探索的分析、日本社会学会大会、2015年9月19日、早稲田大学(東京)

釜野さおり・吉仲崇・風間孝・石田仁・河口和也、日本におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識(3) 身内と他人の比較並びに社会経済的属性との関連、日本社会学会大会、2015年9月19日、早稲田大学(東京)

〔図書〕(計 2件)

堀江有里、洛北出版、レズビアン・アイデンティティーズ、2015、363頁

風間孝、法律文化社、教養としてのジェンダーと平和、2016、248頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
研究代表者ホームページ
<http://alpha.shudo-u.ac.jp/~kawaguch/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

河口 和也 (KAWAGUCHI, Kazuya)
広島修道大学・人文学部・教授
研究者番号：10351983

(2)研究分担者

釜野 さおり (KAMANO, Saori)
国立社会保障・人口問題研究所・人口動向研究部・第2室長
研究者番号：20270415

菅野 優香 (KANNO, Yuka)
同志社大学・グローバルスタディーズ研究科・准教授
研究者番号：30623756

清水 晶子 (SHIMIZU, Akiko)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：40361589

石田 仁 (ISHIDA, Hitoshi)
明治学院大学・社会学部・研究員
研究者番号：40601810

風間 孝 (KAZAMA, Takashi)
中京大学・国際教養学部・教授
研究者番号：50387627

堀江 有里 (HORIE, Yuri)
立命館大学・国際関係学部・非常勤講師
研究者番号：60535756

谷口 洋幸 (TANIGUCHI, Hiroyuki)
高岡法科大学・法学部・准教授
研究者番号：90468843

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者

吉仲 崇 (YOSHINAKA, Takashi)
横浜市立大学大学院